

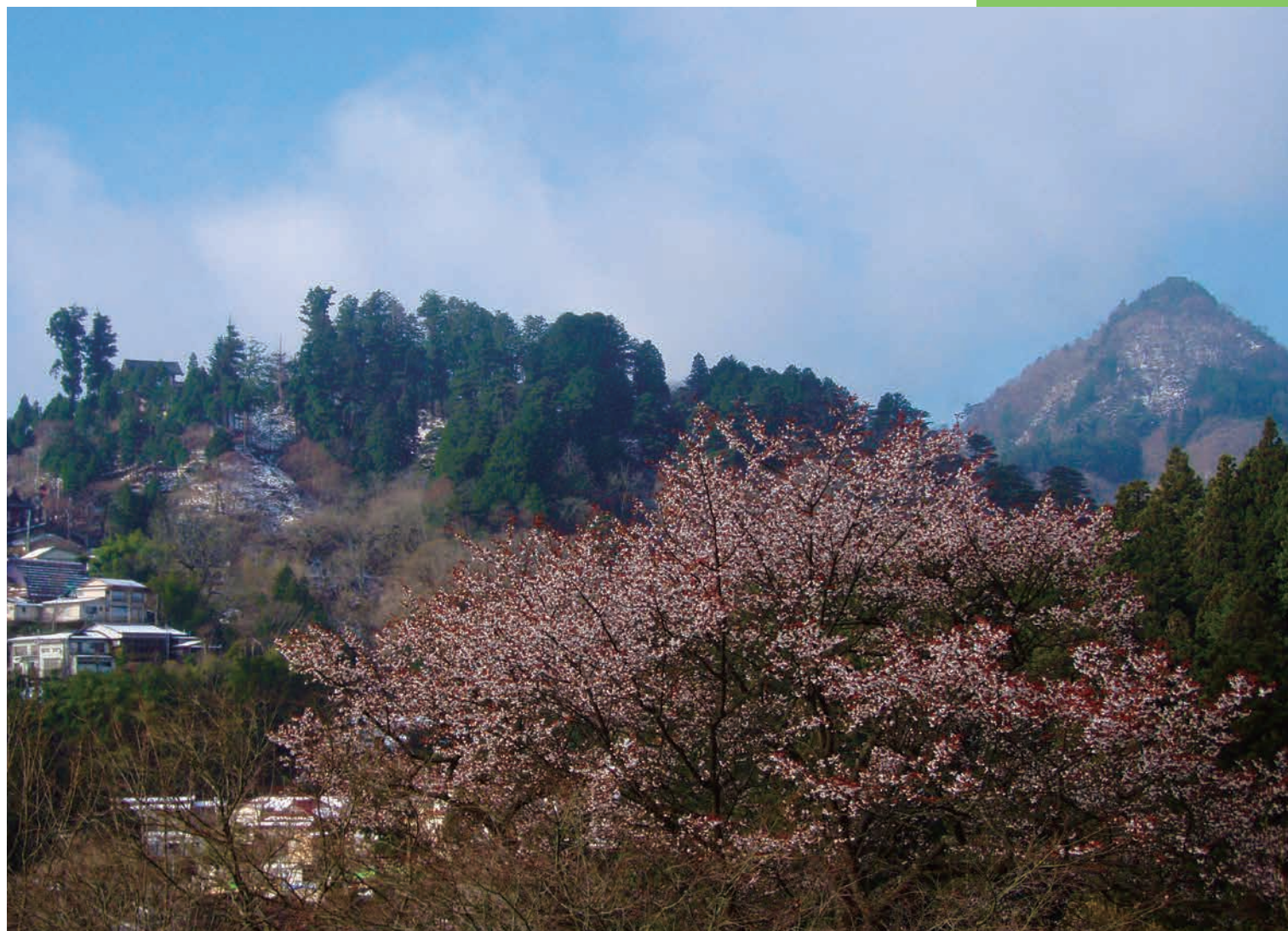


～自治調査会だより～

2015
3

NO. 018

[発行日]
2015.3.1



【写真提供】御岳ビジターセンター 【撮影場所】青梅市 御岳山

▶ 平成 27 年度 調査研究テーマについて	2
▶ 平成 25 年度 調査研究報告書の紹介 「自治体クラウドを活用した市町村の広域連携に関する調査報告書」	3
▶ 多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～ 2014（平成 26）年版を発行します	4
▶ オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト ・福生市「環境学習講座」	5
▶ 多摩交流センターだより ・多摩交流センター開設 20 周年記念事業まとめ	6
・広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介	7
Water Life ～みずからだ～ 2014	

・ちょっと一息 「路上のアート?～マンホールのふた～」	7
・多摩発・遠隔生涯学習講座	8
・東京雑学大学講義案内	8
・TAMA市民塾 日曜講座のお知らせ	9
▶ 編集後記	9
▶ とっておきスポット～“ココ” ご存じですか?～青梅市	10

Contents

3月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会

平成27年度

調査研究テーマについて

当調査会では、多摩・島しょ地域の市町村の広域的・共通課題を中心に、年度ごとにテーマを複数選定して単年度調査研究を実施しています。各年度の調査研究報告書は、多摩・島しょ地域の市町村などに配布するとともに、ホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)にも掲載し公開しています。

平成27年度は5件の調査研究を実施することを予定しており、今回はその概要を紹介いたします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける多摩・島しょ地域の可能性と展望に関する調査研究

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されるにあたり、多摩・島しょ地域市町村においても積極的に大会の一翼を担うことが求められています。

そこで、多摩・島しょ地域における波及効果や各種の参画可能性を示し、市町村が各種取組を企画実施する際に役立つ実践書の取りまとめを目指します。そのうえで、大会に臨むビジョンや、取組のレガシーなどについても示していきます。

食育に関する調査研究 ～食が育む豊かな社会～

食は人の活動の基礎となるものであり、食育には、食に関する知識に加えて学習意欲等を育むといった効果があります。また地産地消・食料自給率・地球温暖化防止・生物多様性等、様々な行政課題とも関連性が深いものです。

本調査研究では、大きく分けて①ライフステージに応じた食育、②持続可能な社会・地域づくりの2つの視点から食育や食育事業の意義と効果を整理・再評価し、市町村が有意義な食育事業を展開していくためのヒントを提示します。

創業による地域活性化と自治体による支援に関する調査研究

産業競争力強化法に基づき、市区町村による創業支援事業計画を国が認定する制度が開始され、多摩地域においても市町村の窓口が整備されつつあります。

そこで、創業の地域に対する波及効果や公益性に着目し、地域経済活性化や新たな公共サービスの担い手育成に向けて、「自治体にとって取組意義がある創業支援は何か」を考えるためのヒントを示していきます。

高齢社会における「ヒト」と「モノ」の移動に関する調査研究 ～地域交通と物流に着目して～

公共交通機関の減少、スーパーなどの撤退によって日常生活に支障をきたしている交通弱者が、高齢社会の進行・商店の撤退・運転免許証の自主返納の増加などにより増えています。

国も、自治体が主体となった「乗り合い・予約型」の小型バスやタクシーを普及させる方針を示していますが、本調査研究では、個々の自治体で地域に相応しい「ヒト」と「モノ」の移動手段を選択する方策などを示していきます。

住民がつくる自立した地域コミュニティの形成に関する調査研究

既存の地縁組織(自治会・町内会)が活動参加者の減少に悩まされているなかで、地域通貨などの「道具」を介在させた住民による自発的な活動が地域コミュニティの活性化につながった事例が存在します。

本調査研究では、防災・子育て・介護等の「課題解決のためのテーマ型コミュニティ」を題材に、新たな形の地域コミュニティの必要性を感じている住民等に、活動のヒントや新たな可能性を提示します。

平成25年度 調査研究報告書の紹介

本紙2014年5月号 (No.018) で概要を紹介した平成25年度の調査報告書のうち、5件の単年度調査報告書について、隔月で詳細を紹介しています。最終回の今月号では、「自治体クラウドを活用した市町村の広域連携に関する調査報告書」を紹介します。

本報告書は、当調査会ホームページ (<http://www.tama-100.or.jp/>) にてダウンロードできます。

情報処理技術の進展によりクラウドコンピューティングを活用して、住民情報・国民年金・税務などのシステムを共同利用するといった自治体間の連携が全国的に増えています。

本調査では多摩・島しょ地域における自治体クラウドの動向や課題などの現状把握を行うとともに、全国の事例調査、関係団体へのヒアリングを通じて自治体クラウドに関する課題の解決策などの整理を行いました。

1.自治体クラウドの現状

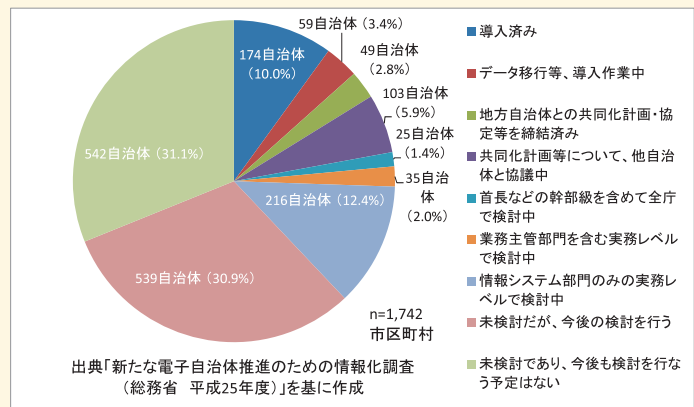
平成25年4月時点の全国における自治体クラウドの導入状況は全市区町村の10%程度となっています。さらに、「検討中、今後検討を行う」といった団体のうち、約半数は平成28年度までに結論を出すとしており、今後さらに自治体クラウド導入が進んでいくことが予想されています。

また、国としても番号制度対応をきっかけにクラウド化が加速すると考えており、集中的に支援をしていくことを予定しています。

●自治体クラウド導入に係る効果

- 情報システムに係るコスト削減
- 情報システムの管理・運用業務の軽減
- 業務プロセスによる業務効率化
- 情報セキュリティの確保
- 住民サービスの向上
- 災害への対応強化

自治体クラウドの導入状況(全国)



●自治体クラウド導入に係る課題

- パッケージに合わせた業務標準化の実施
- データ移行費用の削減
- 情報セキュリティの確保
- ライセンス利用料の抑制
- 番号制度への対応

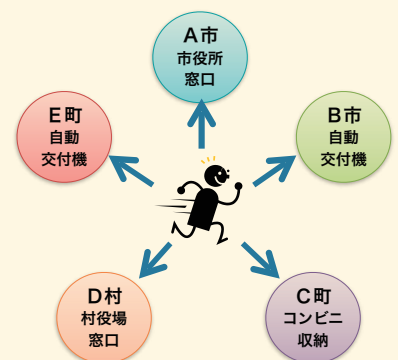
2. 自治体クラウドを活用した市町村の広域連携

●自治体クラウドの導入パターンとその特徴

- ・人口規模による導入（同規模の自治体同士）
- ・特定業務システムに特化した導入（業務標準化の実現性など）
- ・地域性による導入（過去からの交流実績など）

●自治体クラウド導入による新たな可能性

- ・通常業務遂行における可能性（窓口業務の共通化など）
- ・災害時における可能性（BCP分野における広域連携など）
- ・新たなサービス提供の可能性（削減経費の新規事業への充当など）



図表 複数自治体窓口の広域利用のイメージ

多摩地域データブック ～多摩地域主要統計表～

2014(平成26)年版を発行します

多摩地域データブックは、国や東京都が発行する人口、産業、福祉等の各種統計資料から、多摩地域の市町村に共通するデータを収集し、市町村等の状況を比較できるようにまとめたものです。

今回発行する平成26年版は、おおむね平成26年12月までに発表された統計データを収録しており、3月下旬に発行を予定しています。最寄りの市役所や町・村役場、図書館等でご覧ください。また、当調査会のホームページ (<http://www.tama-100.or.jp/>) にも掲載します。

統計を通じて多摩地域に対する理解を深めるとともに、今後のまちづくりを考える上での基礎資料としてご活用いただければ幸いです。

活用例

多摩地域データブックで見る平成25年中の人口増減

本書から、多摩地域、島しょ地域、特別区、東京都全体における平成25年中の人口増減の状況を比較することができます。下表は、地域別に、増減要因ごとの人口増減数を表したものです。

例えば、「都内間の移動」について見ると、多摩地域計が3,337人減であるのに対して、特別区計は1,328人増となっています。多摩地域は、全体的に都内の他自治体への転出が多く、特別区は、他自治体からの転入の方が多い傾向にあります。

また、「自然動態」について見ると、多摩地域計が1,723人減となっており、出生数が死亡数を下回っています。一方で、特別区計は1,901人増となっており、東京都全体の数字(26人減)に影響を与えているのは、主に多摩地域であることが分かります。

<平成25年中の人口増減>

(単位：人)

	平成25年 1月1日現在 の人口	平成25年中の人口増減						平成26年 1月1日現在 の人口
			<増減率>	他道府県 との移動	都内間の 移動	自然動態	その他の 増減	
多摩地域計	4,192,937	6,977	0.17%	12,486	-3,337	-1,723	-449	4,199,914
島しょ地域計	27,335	-465	-1.70%	-105	-165	-204	9	26,870
特別区計	9,002,488	64,767	0.72%	55,931	1,328	1,901	5,607	9,067,255
東京都計	13,222,760	71,279	0.54%	68,312	-	-26	5,167	13,294,039

※「都内間の移動」は、各地域内の移動を含む。

「多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2014(平成26)年版」から作成

また、多摩地域データブックでは、各市町村のデータも掲載していますので、市町村ごとの比較をすることも可能です。

<人口増加率が大きい多摩地域の自治体(上位3団体)>

(単位：人)

	<増加率>	平成25年中の人口増減				
			他道府県 との移動	都内間の 移動	自然動態	その他の 増減
① 多摩市	1.35%	1,962	912	1,256	-99	-107
② 武蔵野市	1.19%	1,659	1,005	483	136	35
③ 狛江市	1.03%	814	571	221	2	20

「多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2014(平成26)年版」から作成



オール東京62市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及、啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。

福生市の事業について、下記のとおり紹介します。



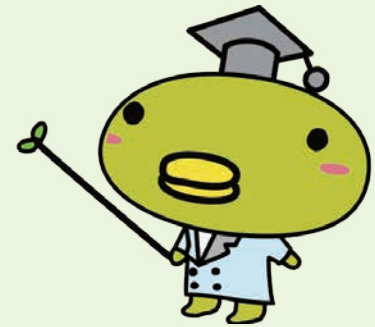
かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。

福生市 「環境学習講座」

福生スクラム・マイナス50%運営協議会^{※1}では、環境意識の向上とエコピープル^{※2}の育成を目的に、全6回の環境学習講座を開催しました。この講座は平成25年度から開始し、今年度で2年目となります。今年度は9名の方が参加しました。福生市福祉センターを会場とし、市内在住の環境カウンセラー山本忠氏に講師をお願いしました。

教材は「eco検定」^{※3}のテキストを基本とし、地球温暖化問題、エネルギー問題、生物多様性、循環型社会、震災関連や持続可能な社会に向けたアプローチなど幅広く環境に関する分野を扱いました。

環境についての基礎知識を身に付けるとともに、新聞等の資料を活用し、現在起きている環境問題についても学びました。また、参加者同士が交流できるように、気になる環境問題について発表をする機会を設けるとともに、市内で起きている身近な環境問題について、活発に意見交換を行いました。



福生市環境課キャラクターTAMA博士



▲講座の様子



▲参加者に修了証を渡しました

子どもへの環境教育を行っていただきたいという思いから、託児室を設け、子育て世代の方にも気軽にご参加いただけるよう工夫し、幅広い年齢層の参加となりました。

この講座を通じて、参加者からは「環境に関する興味が深まった」、「今回身に付けた知識を子どもたちに伝えたい」等の感想をいただきました。

講座終了後は「eco検定」に挑戦された方もおり、エコピープルとして活動されています。

※1 福生スクラム・マイナス50%運営協議会とは、行政及び商工会、事業者を中心に環境と経済の好循環の実現等に資することを目的として、市内のエネルギー消費を削減し、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を削減するための活動を行うために設立された協議会です。

※2 エコピープルとは、「eco検定」(下記※3を参照)の合格者を呼ぶ名称です。

※3 「eco検定」とは、「環境社会検定試験」の通称です。東京商工会議所の主催で行われ、環境問題に関する幅広い知識が問われるものと言われています。



多摩交流センターだより



多摩交流センター開設20周年記念事業



平成26年7月1日、多摩交流センターは開設20周年を迎えました。

これを記念し、20年の軌跡をたどるとともに、その事業成果を広く多摩地域住民に還元するため、3つの記念事業を実施しました。これらを通じて、改めて多摩地域への親しみや愛着を感じ、その魅力や将来について見つめなおすきっかけとなれば幸いです。

事業1 20周年記念誌の発行

『多摩交流センター20年のあゆみ ～市民ネットワーク活動のこれまでとこれから～』 を発行します!!

A4・フルカラー・P148

● 主な内容紹介

● 多摩交流センターのあゆみ

当センター開設の経緯や、登録団体の紹介を掲載しています。また、会議室及び施設の紹介や施設の利用登録方法などを掲載しています。

● 助成事業・市民ネットワーク活動の分析等

市民活動団体・助成団体等の紹介や、各団体が活動が続けているポイント・活動に伴う課題などをアンケート調査をもとに分析しています。

また、事業助成・活動支援などの制度の仕組みについてもまとめています。

● TAMA市民塾、多摩発・遠隔生涯学習講座、 多摩の歴史講座、TAMAとことん討論会

共催事業の実施状況と共催団体の紹介をしています。



今後の活動に役立つ情報を掲載し、日頃当センターを利用している方が活用しやすい構成としています。

当センターの市民交流・資料室において閲覧いただける予定です。

事業2 体験型イベントの実施

「武蔵野台地と水」をテーマに、私たちが普段暮らししている足元である多摩の魅力を発見・体験・創造できる体験型イベントを、広域的市民団体等と共同で実施しました。

多摩は昔、水の豊かな地域とそうでない地域がありました。その姿をガイドによる解説を交えて実際に歩いて体験し、地形・水系から見た特徴、人々の生活や産業との関連などを明らかにすることを目的とし、

「多摩の歴史講座」や、「足で知る多摩の魅力ガイドウォーク」（2コース）のイベントを行いました。

詳細につきましては、本紙1月号（No.16）をご覧ください。



▲竹林公園・東久留米市



▲上水小橋

事業3 登録団体の活動紹介の場の提供

当センター会議室利用登録団体の日頃の活動成果を発表する場として、市民交流・資料室にて展示を実施しました。

平成26年7月のモデル展示の後、月を前・後半に分け、平成27年3月までに展示希望団体の中から抽選で20団体が作品や活動レポート、団体紹介などの展示をしました。

なお、好評につき、平成27年度も展示を継続する予定です。



▲7月のモデル展示

広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

Water Life ～みずからだ～ 2014

日 時 平成27年3月22日(日) 13:00～15:00
場 所 小平市中央公園雑木林(西武国分寺線鷹の台駅徒歩4分)
 ※雨天の場合 津田公民館ホール

(西武多摩湖線一橋学園駅徒歩15分)
内 容 土を踏み木々の中に立ちどまり、からだで感じ想像する時間。これまでの玉川上水沿いでの茶屋や「身体と想像力」の講座を通して準備しています。

今年は、協力団体によるいきもの紹介で林を知り味わい、ゲストの参加協力とともに身近な自然の中で今ここに在ることから交感・交流する場を作ります。どうぞ味わいにいらして下さい。

参加費 無料(どなたでも参加可、要予約)

【主 催】 玉川上水ライフらいんproject

【問合せ】 TEL 090-8342-8558(きくち)

Email: biyo.j@jcom.home.ne.jp

ブログ: <http://tamagawajousuilife.blog134.fc2.com/>



ちょっと一息

路上のアート? ～マンホールのふた～



福生市



昭島市



小金井市



小平市

誰もが毎日のように目にしているのに、あまり注意を払わない「マンホールのふた」。近年、様々なデザインが施されたり、カラフルに着色されたものがあるのを見かけませんか?

本紙1月号(No.016)でご報告した玉川上水ガイドウォークの際、見学に訪れた小平市の「ふれあい下水道館」に、多摩地域の下水道マンホールのふたの写真が展示されていました。市町村のシンボルである木や花、鳥が描かれている他、市町村に縁のある行事や事柄がデザインされたものもあります。例えば福生市の「七夕まつり」の織姫と彦星、昭島市では多摩川近くで化石が発見された「アキシマクジラ」にちなんだクジラなど、知

らない人が見たら「何故このデザインなんだろう?」と思わせるものもありました。

従来は滑り止めのために幾何学模様などが刻まれていましたが、この直径60cm程の金属を円形のキャンパスに見立て、各市町村が創意工夫したデザインを施すようになりました。これによって街の景観に彩りが加わると同時に、その市町村のシンボルや行事、事柄などのいわば「アピールポイント」を広報する場にもなっているのかなと感じました。

みなさんもお住いの地域のマンホールに、どんなデザインのふたがあるか探してみませんか?

(写真提供: 小平市ふれあい下水道館)

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会

3・4月予定の講座案内

133回

日時 平成27年3月12日(木) 14:30から約1時間

題名 地熱発電の現状と展望

講師 水谷 滋樹 氏(現:川崎地質(株)技術顧問、
元:電源開発(株)、住友商事(株))

内容 日本は世界3位の地熱資源ポテンシャル(2,340万kw)を保有しています。しかしその2%強の52万kwが17地熱発電所にて商業発電されているに過ぎません。この背景には資源の多くが国立公園内にありその開発規制や十分な経済性が得られないことがあります。環境省や経済産業省の導入促進策や資源開発リスク回避策について報告します。

134回

日時 平成27年4月9日(木) 14:30から約1時間

題名 マンション住まいの予備知識～マンションの管理と防災を知る

講師 市川 貴久 氏(マンション管理士、金融内部監査士、防災士)

内容 今、マンションへの永住意識がこれまで以上に高まってきています。マンション管理の知識は専門性が高く、従来の講座ではテーマが細かく絞り込まれていました。そこで今回は、管理組合の仕組み、修繕計画、規約、住戸内防災の事例やデータをもとに、やや広範囲に「終の棲家にするための予備知識」をおさらいします。

○受講料 無料(ただし資料代100円)

○メイン会場 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください)

○サテライト会場 武蔵野市かたらいの道

○ライブ中継・VOD視聴について

多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先:TEL 080-3427-9848(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

東京雑学大学

4月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は4月9日を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第983回	4月2日(木) 14:00から	平家琵琶で語る“平家物語”の和歌	鈴木 まどか 氏 (前田流平家詞曲相伝)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第984回	4月9日(木) 14:30から	マンション住まいの予備知識 ～マンションの管理と防災を知る	市川 貴久 氏 (マンション管理士、金融内部監査士、防災士)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第985回	4月16日(木) 14:00から	電波ICTの将来はどうなる?	齋 昭男 氏 (YRP研究開発推進協会会長、 (株)中央コリドー代表取締役)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第986回	4月23日(木) 14:00から	ペリー提督献上の電信機と その後の日本電信事情	日景 洋一 氏 (横浜黒船研究会会員)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741(浅田) TEL 0422-52-0908(菅原)

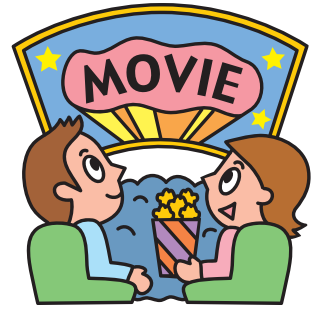
TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第101回

映画のイメージを理解する、楽しむ

【講師】^わ ^り 王 莉 氏

小さい頃から映画に夢中、30歳になった年にアメリカへ行くことを決め、シカゴ大学で映画製作を専攻、世界各国の映画を学びながらフレームに表現されるイメージの違いからその国における文化の特徴に関心を寄せる。大学を卒業後ハリウッドの配給会社で独立映画系の作品を配給することに携わる。現在、共同製作のプロジェクトに取り組んでいる。



【内 容】 “Mise-en-scene”(ミゼンセーン)は映画で用いられる表現を表す言葉で、フレームの中の全ての要素の総括である。“Mise-en-scene”を構成する要素は、人物はもちろん人物の表情、表情に当たる光、化粧、道具、俳優の演技までを含む。“Mise-en-scene”を通じてフレーム毎の意味を見出すことが出来、ひとつのシークエンスを作る。映画の物語はこうしたシークエンスの連続から成り立っている。本講座は、小津安二郎の「東京物語」の“Mise-en-scene”を説明する。“Mise-en-scene”を理解すれば、映画をもっと楽しむことができる。本講座を通じて、皆さんがさり気なく体験する日常生活から“Mise-en-scene”に気づいていただければ、人生に多彩な色づけが出来ると思います。

日 時 平成27年4月19日(日) 14:00～16:00
場 所 多摩交流センター会議室
京王線府中駅北口 府中駅北第2庁舎6階
(府中市寿町1-5-1)

申込方法 当日会場にお越しください。
先着50名までとさせていただきます。
受講料 無料
問合せ 多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111

「多摩交流センターだより」の問合せ先

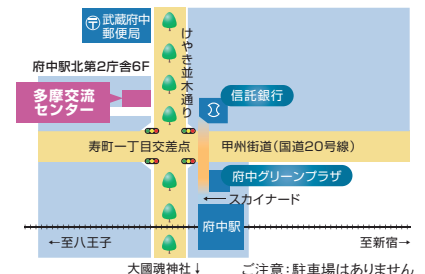
(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 早いもので年度末になりました。来月からは平成27年度が始まります。

本文にありますように、当調査会も新年度の調査研究テーマも決まり、調査開始に向けて準備を進めているところです。

多摩交流センターは、今年度、開設20周年を迎え、記念事業や展示を実施し、これまでの20年を振り返る記念誌を今月中旬に発行します。

- 多摩交流センターでは、多摩地域の市町村の交流の推進を図り、広域的な市民ネットワーク活動を支援し、交流の場を提供しています。毎月お知らせしているとおり、助成事業やTAMA市民塾・各種講座を開催しています。

また、多摩東京移管百周年を記念した事業である「TAMAらいふ21」の記録を保存・公開し、多摩地域に関係するさまざまな情報の収集や提供も行っています。

- 新年度も、より一層の市民ネットワーク形成と発展を促すため、継続して支援・助成や市民企画事業の共催に努めて参ります。

改めて多くの市民の皆様が多摩交流センターをご活用くださいますようお願いいたします。

- 3月は「早春の候」と時候のあいさつがあるように、暦では春ですが、まだまだ朝晩が冷え込みます。また、昨年の大雪災害を踏まえて除雪用具を整えた自治体もあるなど、天候についても油断ができません。

- 花粉の飛散も始まり、寒暖の差も大きいので体調を崩しやすい頃です。

皆さんも、年度替わりを目前に控え、忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、体調管理にも気をつけて、新たな出発の季節をお迎えください。

(M.N.)

とっておきスポット

第6回 青梅市

“ココ”
ご存じ
ですか?

青梅市といえば、表紙の御岳山を連想するかもしれないけど、
今回はわたげのボクが、梅の公園を紹介するよ。

梅の公園は、青梅市吉野梅郷の中心にあって、敷地面積約4.5ヘクタールの山の斜面を利用した自然公園なんだ。去年まではその名のとおり、この写真のように園内一円に梅が咲き誇る観梅の名所だったんだよ。

残念だけど、ウメ輪紋ウイルス※という梅の病気の防除対策のため、去年の5月に公園内の梅は全て伐採されてしまったんだ。

※このウイルス(プラムボックスウィルス)は、人体には無害で、感染樹の果実を食べても健康には全く問題ないよ。

今春の梅の公園は、菜の花を中心に、日本水仙、玄海つつじ、福寿草、ロウバイ、コブシなどいろいろな花が楽しめるようになるんだ。梅のない梅の公園を盛り上げようと、ボランティアをはじめ多くの方々が協力して植えたんだよ。

また、再び観梅の名所として、みなさん楽しんでいただけるよう、関係者の方々が一丸となって取組みを進めているんだ。

この公園を中心に吉野梅郷では、3月8日から4月5日まで「吉野梅郷花まつり」が開催され、梅の里懐古展やオープンガーデンなどが楽しめるよ。

また、期間中は、獅子舞やお囃子、パレードなどが行われる吉野梅郷市民まつりなど、様々なイベントが同時開催されるんだ。

今春は、豊かな色彩と美しい景観で、梅とは一味違う魅力いっぱいの梅の公園へ、みなさんもぜひ、ふわっと行ってみて！

【現地案内】

- ・ JR青梅線日向和田駅から徒歩15分
JR青梅線青梅駅から都営バス「吉野行」に乗りし「吉野梅林」下車徒歩3分
- ・ 入園料無料

【情報・写真提供】

青梅市まちづくり経済部商工観光課
(一社) 青梅市観光協会



【発行日】平成27年3月1日

【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会

【責任者】石井恒利

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>



再生紙を利用しています。